

出 中 だ よ り

発行 平成17年7月20日
砺波市立出町中学校

一粒の種から庭がはじまる

教頭 中嶋 洋一

1 なぜ、ラリーが続くのか

最近、学校や家庭で耳にする子どもたちの会話の中に「別に」「微妙」「まじ?」といった単発のことばが増えているように思います。一度聞いて意味がよくわからず、思わず問い返すこともしばしばです。それで自分の意志が伝わったと考えているのであれば、寂しい限りです。それは、どちらかという一方通行(one-way)のコミュニケーションであると言えます。ことばを交わすとは、自分の思いを伝え合うということです。例えば、学校で「こんにちは」というあいさつが日常的に言えたとしても、自然に「ありがとうございます」「ごめんなさい」ということばが口から出てくるでしょうか。

あるクラスで授業をしていた折に、「会話を続けるには何が必要か」ということを考えてもらいました。卓球部の生徒に「ラリーを続けるとき、何を心がけているか」と尋ねると、「相手の打ちやすい球を返す」という答えが返ってきました。野球部の生徒に「キャッチボールを楽しむにはどうすればいいか」と聞いてみると、「相手がとりやすいボールを投げる」と答えてくれました。

なるほど、その通りです。見逃せないのは、どちらも「相手の立場になっている」という点です。

2 ことばに魂が宿るとき

ことばとは、つくづく不思議な存在です。たった一言で勇気づけられ、たった一言で立ち直れないほど落ち込むことがあります。しかし、いつも使っていることばなのに、私たちはそれに対して無頓着のことが多いようです。メールが原因のトラブル、電子掲示板の中傷なども、元はといえば「ことばや相手への配慮が足りない」ことから起きているように思います。ことばは生きています。

ここで、それを実感させてくれる一編の詩をご紹介します。

One seed can start a garden

(一粒の種から庭が始まります)

One smile can lift a spirit.

(一つの微笑みが気持ちを高揚させます)

One candle can light a room.

(一本のろうソクで部屋が明るくなります)

One conversation can start a friendship.

(一つの会話から友情が生まれます)

One step can begin a journey.

(一歩が旅につながります)

One heart can love many.

(一つの心が博愛を育てます)

One person can make all the difference

(一人が変われば周りが変わります)

that one is you.

(そう、その一人とはあなたなのです)

何も難しいことばは出てきません。しかし、ことばがこのようにつながったとき、ことばに魂が宿り、読み手は深く感動し、自ら考えます。

3 思いと思いがつながれば

私は、仕事柄、和英併用の国語辞典でことばを調べたら、さらにその内容を英英辞典で確認することがあります。英英辞典では、文化の違いを知ることができます。例えば、handkerchief (ハンカチ)を調べると、A handkerchief is a small square of fabric which you use for blowing your nose. (ハンカチは鼻をかむときに使う小さな四角い布です)と出ています。日本では、汗をふいたり手をふいたりしますが、ハンカチで鼻をかむという習慣はありません。実におもしろいものです。知的好奇心は全ての意欲の根源になります。

さて、本校では、昨年度より「つなぐ伝統、築く伝統」をモットーに様々な活動に取り組んでいます。全てが校訓「天資養活・自他共栄」につながるように、シンプルにしたいと考えています。そこで、今年度のカラー版の学校要覧では、運営方針と実践と評価が楕円でつながるようにしてみました。

今回、そのキーワードである3つのことばを、国語辞典と英英辞典で調べてみました。

つなぐ： 結びつける / tie to, connect

築く： 作る / build, make

伝統： 前代から受け継ぐ風習、制度、思想
/ tradition, a custom

tie (タイ・つなぐ、結ぶ)を英英辞典で調べると、If you tie two things together, you fasten them up with a knot or a string. (2つのものをつなぐということは、結び紐か紐でしっかりと結びつけるということです)と紹介されています。fasten はファスナーにもあるように、「外れないようにしっかりとめる」という意味です。そのためには、つなぎ目やのりしろの部分を考えることが大事です。

伝統のどの部分をどのようにつなげていけば(残していけば)よいのでしょうか。生徒、教職員、地域の方々の思いと思いをつなげ、共同体として情報を共有し、よりよい学校となるよう実践していけたらと願っています。

いつでも気軽に学校まで足をお運びください。みなさんの一歩、一粒の種がやがて庭になります。